

令和7年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和7年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和7年7月23日(水曜日) 午後7時00分～午後8時00分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	<p>1 開会</p> <p>(1) 辞令伝達</p> <p>(2) 挨拶</p> <p>(3) 委員の紹介</p> <p>(4) 会長、副会長の選出について</p> <p>(5) 立川市スポーツ推進審議会委員について</p> <p>2 報告・協議</p> <p>(1) 立川市第3次スポーツ推進計画の概要について</p> <p>(2) 柴崎市民体育館中規模改修工事の進捗状況について</p> <p>3 その他</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 立川市スポーツ推進審議会委員名簿 ・資料2 立川市スポーツ推進審議会条例 ・資料3 立川市スポーツ推進審議会施行規則 ・資料4 スポーツ推進審議会委員について ・資料5 立川市第3次スポーツ推進計画(概要版) ・資料6 立川市第3次スポーツ推進計画 ・資料7 柴崎市民体育館中規模改修工事の進捗状況について ・参考資料1-1 スポーツ基本法より抜粋 ・参考資料1-2 スポーツ基本法の改正について ・参考資料2 立川市第5次長期総合計画前期基本計画(抜粋) ・参考資料3 東京都スポーツ推進総合計画(抜粋) ・参考資料4 令和6年度市政に関するアンケート
出席者	<p>[委員]</p> <p>原田 尚幸、芦澤 清八、隈崎 由紀子、福原 憲生、山口 聡、永島 康雄、原 宏樹、吉井 英司、田尻 逸輝、山田 恵理</p> <p>[事務局]</p> <p>奥野 武司(文化スポーツ部長)、伊東 佐知子(スポーツ振興課長)、上野 聖(企画調整係長)、秋元 公貴(スポーツ振興係長)、濱田 真希(スポーツ施設係長)、下條 愛里咲(企画調整係)</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
担当	文化スポーツ部スポーツ振興課企画調整係 電話 042-529-8515

1 開会

(1) 辞令伝達

(2) 挨拶

(3) 委員の紹介

(4) 会長、副会長の選出について

・(スポーツ振興課長) 互選により会長、副会長の選出を行う。選出方法について意見はあるか。

(意見なし)

・(スポーツ振興課長) 事務局案として、専門的見地をお持ちの和光大学教授原田尚幸様に会長職、地域における活動にご尽力をいただいている特定非営利活動法人立川市スポーツ協会会長の芦澤清八様に副会長職にお願いしたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

(5) 立川市スポーツ推進審議会委員について

<資料2、3、4に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

2 報告・協議

(1) 立川市第3次スポーツ推進計画の概要について

<資料5、6に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

・(会長) 資料5について少し補足をすると、第3次スポーツ推進計画を策定するにあたって昨年度の審議会では、基本理念を設定するところから作業を始めた。つまりこの計画が、誰のため、何のための計画なのかということ全員で共有する、それを言葉に落とし込んだ理念を作成することに最初に時間を割いた。その基本理念にしたがって、具体的な計画を4つの体系にわけて、それぞれの具体的な施策の内容が計画に記載されている。質問などはあるか?

(意見、質問なし)

(2) 柴崎市民体育館中規模改修工事の進捗状況について

<資料7に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

・(会長) 意見、質問などはあるか?

(意見、質問なし)

3 その他

(1) 委員からの情報提供について

・(委員) 錦町体育会では、町会対抗、ソフトボール大会を開催したが、8町会の内3町会が不参加となり、5町会での実施となった。若い人の選手が減り、高齢者では事故が心配ということで、参加が得られず。今後の課題となった。今後は、連合チームでのチームづくりや大会要項の見直しなどより、みんなで楽しくできる大会にしてゆき、計画にもある「スポーツでみんなの“わ”」を実践していきたい。

・(文化スポーツ部長) 本日新たに着任いただき、初めて立川市第3次スポーツ推進計画に目を通す方もおられると思うが、昨年度審議会を通して計画に携わっていただいたので、次回の審議会までに一通り目を通していただき、感想などをいただきたい。この計画には、よりこういう形でやっていると立川のらしさが出るとか、こうすると市民にとってもっといい形でスポーツが身近な存在になっていくのではないかについてまでの、踏み込んだ記載には至ってない。我々行政として、この計画を道しるべとして、5年間スポーツ推進に向けて取り組んでいきたいと思うので、ぜひ次回の審議会では、議論や意見交換をする時間を多くとっていただければと思う。

・(会長) 計画のなかでの数値の目標でいうと、1年に週1回以上スポーツを行っている成人の割合が60%以上になっているが、これは国や都の目標をそのまま記載している形になっている。ただし、この計画では単に週1回以上スポーツを行っているというだけでなく、ワクワクして、笑顔があふれるようなスポーツを行っている割合が60%以上ということで定義づけをした。そういう気持ちで策定した計画なので、内容を改めて確認していただき、次回の審議会では、皆様のお知恵を頂戴して引き続きお願いしたい。全体を通して、皆様から質問や意見などあるか?

・(委員) 中学校の部活動が地域連携をしなければいけないという動きがあるなか、東京女子体育大学が一般社団法人TWCPESポーツアカデミーを立ち上げた。ソフトテニスと陸上とダンス、

この三つの競技を土曜と日曜日に、大学の施設を使用して生徒を募集して教えるという取り組みがスタートする。また、トレーニングルームがあり、市民開放をしたいという動きもある。会費制を取るのでは、実際どのくらいの会費になるのかということもあるが、中学校と小学校6年生にも呼びかけをしたいということ。あと、東京女子体育大学の3年生が授業の単位として、中学校で活動指導すると単位をもらえるという取り組みが始まっている。大学内の対象生徒が24人ほどで連携自治体とマッチングをして、本校では陸上部にきていただいております、本当にありがたい。個人的にはこの動きを横軸につなげていき、立川市全体として活動を繋げていければと思う。

・(文化スポーツ部長) 東京女子体育大学とは連携協定をしていて、連携協定結んでいる自治体が、国立市、府中市など5自治体ある。今ご紹介いただいた一般社団法人化をする動きのなかで、部活動の地域連携移行の受け皿として、地域スポーツクラブ的な活動を学校の施設を活用しながらやっていく、また、各学校に人材を送り出すことをやっている。また、土日の先生の負担軽減を図る上で、指導者について親御さんに安心して任せてもらえる地域の受け皿があれば、連携をしていく形で移行していきたいというのが、国が示しているイメージである。指導者の育成の部分においては、我々やその上の世代など、体育会系の世界で育ってきた人たちが指導者として担ったときに、今の子ども達とのやり取りの中で大きなギャップを感じてしまう。地域に役に立つと思いきや指導に参加したのに、空回りしてしまうとそれは利用者にとっても幸せな関係ではなくなってしまうので、まずは種目のスキルよりも以前に、現在の中学生世代の方たちと、接する上での接し方や声掛け、指導の仕方も、地域の指導者の方たちには、情報のアップデートをしていただいて、親御さんに安心して任せてもらえるよう地域の指導者になっていただくのが望ましい。立川市スポーツ協会は、市内12地区にわかれていて、それを統合している団体としてある。それぞれの地区に体育会というのがあって、それぞれの競技で得点を競い合って、1年間の総合優勝を決めるという国体形式の総合体育大会出来ている自治体はそんなにない状況の中で、立川市はそれを戦争が終わった翌年から開始している。今年が第79回になるという非常に歴史がある大会を重ねている自治体でもあるので、地域資源として既になっている地区体育会の皆様と、大学が持っている最新の指導の知識だとか、そういうものをうまく掛け算して、地域の皆様も安心して指導にあたるなど、それにより地域で顔が見える関係になり、大人たちに見守られているなか、中学生がよりよい活動ができる関係性が少しずつでもできていくと、我々としては望ましいのかなというふうに期待をしている。そこに至るには、中学校の先生方の今の負担感や、どういったところにサポートが欲しいというニーズがあるのか、我々行政がハブ役になって、様々な意見交換しながら数年間やっていければと思う。

・(委員) プロスポーツ連絡会は、昨年ハンドボールのジークスター東京さんがメンバーになった。現在、立川立飛アリーナやマオリンクを運営しており子どもの交流等の事業をしている。部活の話として、自身が携わっている立川ダイスは、バスケットボールのチームなので、部活に何か貢献したいなどは思っているが、寄与できるのはバスケのみになってしまうが、色々な競技に寄与したいなど思っている。例えば、ヴェルディさんならサッカー、立川アスレさんならフットサル、マオリンクならスケートなど、プロスポーツ連絡会として、ここに行けばこの競技が学べるなど派生していければと思う。指導者の問題としては、バスケ界でもいわゆるパワハラで過去に問題があり処分されるなどもあった。今は通報制度など色々な制度ができ昔よりはよくなったが、まだまだ若年層の指導者が足りていないことや、スポーツを行う場所の確保などの課題はある。バスケのBリーグのユースなどスクールがあるところでは、情報共有会や、選手向け研修会なども開催している。自治体単位で東京女子体育大学と連携も進めているということだが、プロスポーツ連絡会もぜひ何かしら協力したいと思う。

・(委員) 柴崎市民体育館の工事について、休館中に今まで柴崎市民体育館を利用していた方に向けて、代替の取り組みをしているのか。

・(スポーツ振興課長) 柴崎市民体育館で行っていた軽体操・みんなでストレッチ教室を練成館で行っている。

・(副会長) 補足すると、柴崎市民体育館で行っていた市民体育大会は、泉市民体育館や小中学校の体育館で行っている。

・(委員) 中学校の市民体育大会について、主催はどこでやっているのか。昨年度の8月3日に陸上競技市民体育大会に応援に行ったのだが、酷暑のなか生徒が競技し、9時半の時点では既に1人の生徒が熱中症で本部で休んでいた。陸上競技協会には高齢者が多い中、運営の手伝いをされていた。今年度も8月3日と聞いて、なぜまた酷暑の中での開催を決定したのか。子どもの健康を考えると、日にちをずらすということはできないのか。

・(副会長) 主催はスポーツ振興課、それをスポーツ協会に委託している。そこから各団体が各競技の運営をしている。日程は、市町村で運営している市町村体育大会が8月6日までで毎年予定が組まれてしまっているのが、市民体育大会だけ単独で日程をずらすことができない。ただここ数年、問題になっている。先般、スポーツ庁の方から暑さ対策の指数の状況等を参考にしながら開催方法を検討する方針が出ていて、立川市としても方針が出されると思うが、スポーツ協会でも指数計を購入したので、各団体にはその数値をもとに中止等の判断をすると決めました。しかし、市民体育大会を中止するには、そこで決定した代表が、都や関東の大会につながっていくので、全体の大会の日程を調整しなくてははいけなくなる。ただ、朝夕に大会を行うなどの運用を始めだしたところではある。

・(委員) 中学校のサッカー協会では、今年度は試合開始を、8時、9時、15時30分、17時と、朝と夕方に4回に分けている。日本サッカー協会では、7月から8月までは試合をしていけないという指針が出されたので、来年度からは、その指針にならおうと考えている。3年生の中体連の大会が6月に終わってしまうので、せめて夏前まではやらしてあげようということで、市民体育大会は7月に設定していたが、来年度は中止すると決めた。陸上競技の方も検討してみようか。

・(副会長) 昨年度から、陸上競技場は冬季閉鎖がなくなり解禁された。朝早くから行う対策は、市の施設だと難しいが、何か対策はしないといけない。東京都のスポーツ協会から補助金が出ているので、設備などだけで対策できる問題ではないと思うが、現状は冷蔵庫や冷風機等で対処はせざるをえない。日程をずらすことは大変難しいところである。

・(委員) 陸上競技場は、現在スタンドが撤去されたためテントも持参はしているがアスファルトの反射がすごいので、1度確認していただいて、対策など事故が起きないようにしていただきたい。上につながる大会ではない場合は、日程をずらすことも検討していただきたい。

・(副会長) 開催時においてあまりにも暑さがひどい場合には、事務局の方から各団体には再度周知していきたい。

・(委員) 屋外スポーツにおいて熱中症対策はこれから特に課題となってくる。保健医療面からの意見になると場合によっては、スポーツ推進にブレーキをかけてしまうことにもなりかねないが、スポーツをやっていなかった人が突然スポーツをやりはじめると体に良くないこともあるので、まずは健康を第一にスポーツを推進していったほしい。熱中症等でも健康を損なうことがないように、日程変更だけではなく、どういう対策がとれるのか健康推進の部門と連携して進めていくのが望ましい。

・(会長) 自身も実技で人工芝の上で運動をしたあとに、倒れそうになったことがある。学生たちにも日傘推奨や、ハンディファンなども皆持参しているが、それでも追いつかない状況である。なんとか事故が起きないように、引き続き問題意識を共有できればと思う。改めて計画の内容に目を通していただき、次回の審議会で質問・ご意見があれば頂戴できればと思う。次回の日程については、別途調整させてからというところでよろしいか。皆様から追加でご意見はあるか。
(意見、質問なし)

・(会長) 以上をもちまして、第1回立川市スポーツ推進審議会を閉会とする。

閉会